

平成27年4月25日(土)

木版画クラブ 「小林清親展」見学

場所:練馬区立美術館

参加者: 難波・中山・白根・長沼・笹沢・村田(計6人)

「小林清親」は幕末から明治にかけて活躍した版画家です。

没後 100 年に因んで作品展が「練馬区立美術館」で開催されています。

NHK「日曜美術館」での作品紹介が切っ掛けで、6人の参加で観にいきました。

小林清親の作品の特徴は、これまで無かった「光」を木版画で表現したところにあり、展示数約200点あまりの作品では「闇の中の光」「朝夕の光」のものが多く感じました。

色彩も何とも複雑なものが多く、色の重なりで独特の色表現が印象的で、素晴らしい版画展でした。

当日はプロの刷り師の実演がありました。今回はこれが目的でした。

11時から実演の一番前列に陣取り、木版画の刷りのプロの「技」を見てきました。

刷りの題材は、おなじみの葛飾北斎「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」で、6版10回刷りを眼の前で見ました。特に木版上に色彩をのせ、ノリを加え、ブラシで均一に延ばして版画紙に刷る一連の動作は、さすがプロと感心しました。我々大いに学ぶところがあり有意義な実演会でした。1時間30分があっと過ぎてしまいました。

その後、秋葉原まで来て「清水刃物店」で皆さんで彫刻刀を購入し、更に東上野にある「宮川ブラシ店」で版画用のブラシを購入し、途中丸 1 日の疲れを癒すため美味しいコーヒーを飲んで、大きな収穫を得て5時過ぎに熊谷に帰ってきました。

